

慶應義塾大学ビジネス・スクール

日本クリニックラウン協会 - 「こども時間」を届ける

クリニックラウン (cliniclowns)、それは病院というクリニック (clinic) と道化師というクラウン (clown) の合成語であり、臨床道化師と呼ばれている。今日も、クリニックラウンは、入院生活を送る子どもの病室を訪問し、遊びやコミュニケーションを通して、子どもたちの成長をサポートし、笑顔を育んでいる。

図1 クリニックラウンの概念



本ケースは、クラス討議の資料とするために、慶應義塾大学大学院経営管理研究科井上哲浩教授によって、クラス討議の基礎資料として作成されたものであり、経営上の巧拙を記述したものではない。また本ケースの作成にあたって、特定非営利活動法人日本クリニックラウン協会事務局長兼アーティストック・ディレクター塚原成幸クリニックラウン様、同事務局熊谷恵利子クリニックラウン様、柴田俊久クリニックラウン様、佐々木舞クリニックラウン様、中野朋恵クリニックラウン様、大沢洋平クリニックラウン様、日野由絵クリニックラウン様、王子ネピア株式会社マーケティング部長今敏之様、ドウ創造性研究所所長高橋定孝様より協力を得た。感謝の意を表したい。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール(〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話045-564-2444、e-mail: case@kbs.keio.ac.jp)。また、注文は<http://www.kbs.keio.ac.jp/>へ。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法(電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない)による伝送も、これを禁ずる。

Copyright© 井上哲浩 (2012年1月作成)

クリニクラウンは、道化師とは異なっている。クリニクラウンは、優れた表現者であるだけでなく、子どもとの接し方、子どもの心理、保健衛生や病院の規則にも精通したスペシャリストである。病気の治療のために様々な制限の中で入院生活をしている子どもたちが、おもいきり笑い、主体的に遊ぶことのできる環境をつくる役割を、クリニクラウンは担っている。子どもは入院生活が長くなると、子どもの成長に大切な、出会いや遊びが制限され、笑顔が減ってくる傾向にある。クリニクラウンは、遊びや会話による相互コミュニケーションを通じ、「わ～、すごい！」という驚きを子どもに届け、遊びながら「楽しい！」という気持ちを子どもに起こさせ、子どもから笑顔を引き出そうとする。そして「これ何?」「どうやるの?」「こういうこと?」「やってみたい!」という子どもの想像力と創造力を育もうとする。クリニクラウンの役割は、「入院している子どもたちが子ども本来の生きる力を取り戻し、笑顔になれる環境を創造する」ことにある。そしてクリニクラウンの活動の主役は、クリニクラウンではなく、『子ども』にある (図1)。

「こどもを超えたスーパーこども」、日本クリニクラウン協会では、クリニクラウンをこう定義している。子どもよりも子どもらしい心と発想を持ったクリニクラウンに出会うことで、子どもは驚きや喜び、そして豊かなコミュニケーションを体験することができる。特定非営利活動法人日本クリニクラウン協会の事務局長兼アーティスティック・ディレクターの塚原成幸氏は、

「子どもが子ども本来の生きる力を取り戻し、希望を持って将来の展望を描くためには、今この瞬間が輝いている必要があります。子どもは一人ひとり、成長や発達のスピードが違います。だからこそ、クリニクラウンは単に笑顔になることを決して急がせず、じっくりと子どもと関わることを大事にしています。子どもが自分自身を心から愛せるように。」

と語り、今後の日本クリニクラウン協会でのクリニクラウンの活動に関して、特に存続成長のためにもいかに収益を維持していくべきか、いかに広報活動を展開していくかに関して、思案をめぐらせていた。

日本クリニックラウン協会

日本クリニックラウン協会は、子どもが笑顔になれる環境づくりのために子どもの成長に欠かせない3つの要素の実現と充実を目標に活動をしている(図2)。その3つの要素とは、想像力を刺激する「遊び」、自主性、能動性を育む「発見」、そして家族や友だち、学校などの「社会的環境」である。

この3要素の実現と充実に向けて、塚原氏は、ユーモア発想、そしてその即反応性を非常に大事にしている。そして、

To improve the well-being of sick children by the use of clowning.

という信念のもとに、豊かなコミュニケーションであるクラウニングを用いて病気の子どもたちの幸せに貢献するよう努めている。これまで子どもと向き合ってきた塚原氏が考える、豊かで良質なコミュニケーションを築くための要素には、1) 追い詰めないこと、つまり、子どもを精神的、身体的に追い詰めない工夫が大切である。2) 嘘をつかないこと、つまり、子どもには素晴らしい直観力と繊細な感性があり、信頼感を育むためには相手をはぐらかさないことが重要で、むしろ虚偽そのものが、信頼関係構築において、大きな損失である。そして 3) 真剣に臨むこと、つまり、子どもだからこそ、真剣に向き合っ、本気で共に過ごす時間や経験を大切にすべきである。子どもたちのおかれている現状を好転させるため、クリニックラウンは、共育的立場を目指し、ポジティブな発想と笑いを届けている。

クリニックラウンの特徴

クリニックラウンの特徴として、外見、二人一組、専門教育と遵守規定、定期的な訪問の4つがある。

特徴1：外見

クリニックラウンは、派手なメイクをしたり、クラウンのようなフリルの衣装を着たりはしない。訪問する時に、常に衣装が清潔に保たれていることや容易に手や指の消毒ができること、メイクによって病室のカーテンやシーツを汚さないこと、作られた表情によってコミュニケーションを阻害する恐れを回避する工夫がなされている。また、どのクリニックラウンも活動するときは象徴的な赤い鼻をつけており、鼻をつけている時をノーズオンと言い、この時はクリニックラウンとし

図2 子どもの成長に欠かせない3要素



図3 カンファレンス、消毒、そしてノーズオンの様子



て行動する。そして（後述の）カンファレンスなどで医療スタッフや保護者と大人として話をする時は鼻を取ってノーズオフの状態になる（図3）。

特徴2：二人一組

クリニクラウンが病院訪問する時の最小単位は、二人一組である。これはクリニクラウンが自分のパフォーマンスを見せるために存在しているのではなく、コミュニケーションの世界をつくるために訪問していることに関係している。上述のように、入院中の子どもたちは病院という環境で生活するため、楽しむことや他者と関わることへのモチベーションが低下せざるを得ない状況に陥りがちである。そこで、クリニクラウン同士の関係性や遊びに触れることにより、ゲームでは味わえない人と関わることの楽しさを体験してもらうことができる。また、たとえ教育されたクリニクラウンであっても活動が密室化することを避けるため、お互いの行動を確認しあう効果もある。

特徴3：専門教育と遵守規定

クリニクラウンになるためには現在、クリニクラウン・オランダ財団の協力を得て、日本クリニクラウン協会が主催するオーディション（図4は2011年度のエントリーシート）、養成トレーニング、臨床研修、臨床道化師認定試験の全てをパスする必要がある。クリニクラウンは優れた表現者であると同時に子どもの心理、疾患、保健衛生の基礎知識、医療者との関わり方、病院規則などを学ぶ必要があり、子どもの権利を守る擁護者としての責任と誇りを持ち、協会が定める倫理規定や病院訪問の原則がまとめられたガイドラインを遵守して活動をしなければならない。また、毎年、健康診断書、個人の病歴をまとめた既往歴証明書の提出を医療機関に行い、派遣先から要求があった場合は毎回の訪問時に記入される病院訪問報告書の開示も行っている。

具体的なクリニクラウンの養成課程は、3つのステップから構成されている（図5）。第1ステップは、養成トレーニングであり、クリニクラウンとしての身体表現方法と臨床現場に入るための講義を実施する。養成トレーニングは、入院している子どもや家族との関わりに特化したものであり、相手に恐怖感を与えないコミュニケーションの取り方や状況判断など、病室でのマナーと対人援助技術を含む実践的なカリキュラムが組まれている。講義では、子どもを取り巻く環境や子どもの心理、疾患、保健衛生の基礎知識を学ぶことになる。第2ステップは、臨床研修であり、実際に病院を訪問し、クリニクラウン・トレーナーの指導のもと、臨床現場での経験を積む。そして第3ステップは、認定試験であり、試験合格者は正規のクリニクラウンとして認定される。

表1は、2005年7月に開催された第1回選考会から2011年2月に開催された第9回選考会までのクリニクラウンへの応募者数、書類選考、養成トレーニング生、臨床研修生、そして認定数

図4 2011年度新規クリニクラウンへのエントリーシート



特定非営利活動法人 日本クリニクラウン協会

クリニクラウン エントリーシート 2011

日本クリニクラウン協会では、小児病棟を定期的に訪問し、遊びとユーモアを届け、子どもの笑顔を育む遊化師（クリニクラウン）を募集しています。クリニクラウンとして小児医療現場の療育環境改善に取り組みたいと考えている方は、エントリーシートを当協会までご提出ください。エントリーいただいた方を対象に後日、説明会（ガイダンス）のお知らせを送付させていただきます。実施日程、開催場所につきましては、エントリーの状況を加味して、決定させていただきます。



Time to be a Kid for All Children!

エントリーの方法について

- 条件
 - 平日にクリニクラウンとして病院訪問できる方。
(週1回もしくは2週間に1回程度)
 - 既往歴を開示できる方。
 - 60歳までの方。
- エントリー方法

エントリー用紙を、協会事務局宛に郵送、E-mailのいずれかの方法で送付ください。

 - ①エントリー用紙（協会指定）
 - ②本人（表情の分かるもの）の写真（サービス判L 89mm×127mm）1枚

※ご提出いただいた書類は、ご返却いたしかねますのでご了承ください。
- その他

クラウンとしての実務経験は問いません。ただし、クリニクラウンとして病棟で活動する場合は、患児のイマジネーションを刺激する発想した表現力、即興力、対人援助の知識と実践力が問われます。

*エントリーいただいた方に説明会（ガイダンス）を実施いたします。実施日程、開催場所につきましては、エントリーの状況をみて決定します。開催の目安は半期に1度（年2回程度）です。開催の日程が決まった時点で、エントリーされた方に協会からご連絡させていただきます。

④ガイダンスに参加されても、クリニクラウンのトレーニングを継続することにはなりませんので、ご了承ください。



(特活)日本クリニクラウン協会
2011年度クリニクラウン エントリーシート

記入日: 年 月 日

ふりがな 名前		性別	男・女
ふりがな 住所	〒		
連絡先	携帯: 電話:	FAX:	
E-mail Address	PC:	MOBIL:	
生年月日	年 月 日		(年齢: 歳)
今までの人生で、主に取り組んできたことを教えてください			
病院での勤務 or ボランティアの経験について教えてください 無 / 有 詳しい内容について			
子どもにかかわる活動について教えてください 無 / 有 詳しい内容について			
どこでクリニクラウンを知りましたか?			
特技は何かありますか? () クラウンの経験はありますか? ある なし (経験年数 年) 特技をどのような場所で活用してきましたか? ()			
クリニクラウンに興味を持った理由を教えてください			
もし、クリニクラウンになったら、どんなことをしてみたいですか?			

また、ご自身のPR資料があればお送りください。ただし、ご提出いただいた資料は返却いたしかねます。なお、いただいた情報は適切に協会で管理し、第三者に知られることはありません。

図5 クリニクラウンの養成課程

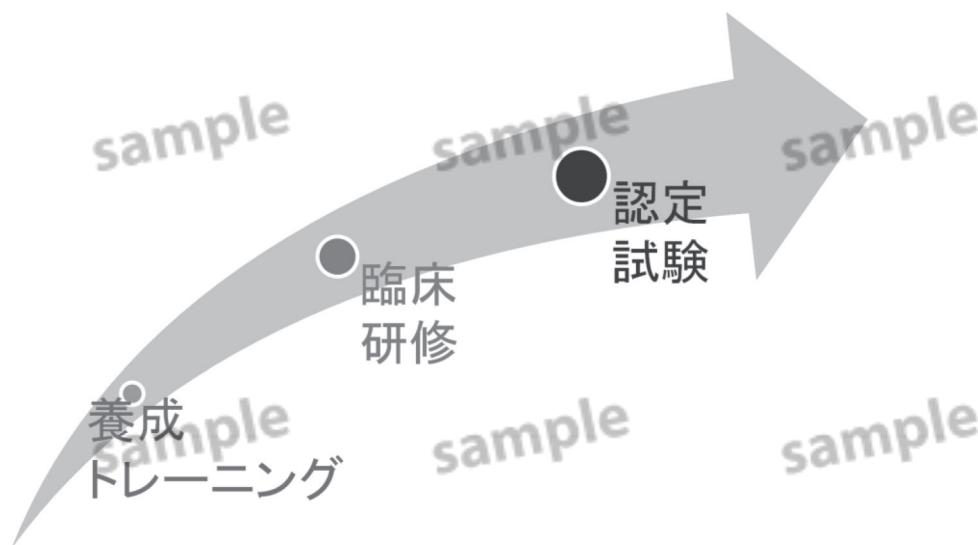


表1 クリニクラウンへの応募者数、書類選考、養成トレーニング生、臨床研修生、そして認定数の変化

	応募者 総数	男性	女性	西日本	東日本	書類選考	養成トレーニング生	臨床 研修生	認定クリニ クラウン
第1回	69	26	43	56	13	20	7	4	4
2005年7月		37.7%	62.3%	81.2%	18.8%	29.0%	10.1%	5.8%	5.8%
第2回	50	20	30	45	5	19	8	3	2
2005年7月		40.0%	60.0%	90.0%	10.0%	38.0%	16.0%	6.0%	4.0%
第3回	42	17	25	28	14	18	10	1	1
2006年5月		40.5%	59.5%	66.7%	33.3%	42.9%	23.8%	2.4%	2.4%
第4回	30	13	17	21	9	28	4	4	1
2006年11月		43.3%	56.7%	70.0%	30.0%	93.3%	13.3%	13.3%	3.3%
第5回	72	19	53	26	46	56	15	2	3
2007年3月		26.4%	73.6%	36.1%	63.9%	77.8%	20.8%	2.8%	4.2%
第6回	25	15	10	20	5	22	0	0	0
2007年11月		60.0%	40.0%	80.0%	20.0%	88.0%	0.0%	0.0%	0.0%
第7回	22	10	12	12	10	21	1	0	0
2008年11月		45.5%	54.5%	54.5%	45.5%	95.5%	4.5%	0.0%	0.0%
第8回	29	8	21	28	1	16	17	2	2
2009年5月		27.6%	72.4%	96.6%	3.4%	55.2%	58.6%	6.9%	6.9%
第9回	54	13	41	33	21	32	7	4	
2011年2月		24.1%	75.9%	61.1%	38.9%	59.3%	13.0%	7.4%	
合計	393	141	252	269	124	232	69	20	13*
		35.9%	64.1%	68.4%	31.6%	59.0%	17.6%	5.1%	3.3%

*トレーナー2名を除く

をまとめたものである。第9回の応募では、合計54名（男性13名、女性41名、西日本から33名、東日本から21名）の応募者を募り、内59.3%の32名が書類選考へと合格し、内7名が養成トレーニング生として、そして4名が臨床研修生として合格している。

特徴4：定期的な訪問

クリニクラウンにとって大切なのは子どもの気持ちを理解し、誰かと関わろうとする能動性を引き出すことであり、それを可能にするのが、定期的な訪問による相互の信頼である。「また来たよ!」「じゃあ、またね…」その期待感と安心感が、心の安らぐ関係性を促すことになる。定期的な関わりができるからこそ、会いたいと思う期待感を育てることができ、同時に一回のコンタクトで全てのことをやり切ろうと焦らずに関わることができる。会っている時間だけが充実するのではなく、人と関わるコミュニケーションそのものに関心をもってもらえるような演出がクリニクラウン特有のアプローチと言えよう。また定期的な訪問を行うことで、クリニクラウン活動の成果を確認する、ということも可能となる。

日本クリニクラウン協会の歩み

日本クリニクラウン協会の理事長である河敬世（かわ けいせい：大阪府立母子保健総合医療センター前院長）氏は、同協会ホームページ上で以下のように挨拶を述べている：

5

近年の医学・医療の進歩のおかげで、不治の病とされてきた小児がんも7割は治せる時代になりました。しかしこのすばらしい成果を得るために大きな犠牲をご家族や患児に強いてきたことも事実であります。これからは、子どもたちの将来を見据えた、QOL重視のトータルケアの実現を、医師、看護師、教師、福祉行政、弁護士、患者家族、ボランティアなど闘病中の子どもたちやご家族に関係するあらゆる職種の専門家が、「学んで遊んで治す」ための方策について議論を深める必要があります。

10

初めてオランダのクリニクラウンに出会ったのが6年前でした。日本クリニクラウン協会がうぶ声をあげて、今年が5年目（筆者注：法人認証2005年10月19日、2010年時点）です。今や医療の中に笑いやユーモアが取り入れられるのは先進諸国の医療実践ではごく当たり前の風景になっています。クリニクラウンは医療関係者でもなければ教育者でもありません。理屈抜きで子どもの友達、味方です。自由を奪われ、落ち込んでいる子どもたちから、子どもらしさや好奇心を引き出し、取り戻してくれる特効薬的存在です。

15

入院中に子どもたちのいっぱい笑顔を見ることができれば、大きい笑い声を聞くことができれば、闘病生活でストレスのたまっているご家族や、まわりの医療スタッフも大いに癒されることでしょう。これからの小児病院（小児科）にはクリニクラウンが不可欠な存在として、立派に成長し日本の社会に定着することを願っています。皆様方のご支援をよろしくお願いします。

20

日本クリニクラウン協会スタッフは、河敬世理事長をはじめ、茨城県立こども病院副院長の連（むらじ）利博副理事長、そして6名の理事と2名の監事から役員が構成されており、名誉顧問に後藤英司氏を迎えている。事務局の構成は、事務局長兼アーティスティック・ディレクターの塚原成幸（しげゆき）氏をはじめ、クリニクラウン・トレーナーの石井裕子氏、広報担当の井上靖代氏、そして事務局スタッフの熊谷恵利子氏、柴田俊久氏、そして新名太郎氏で運営されている。協会は、2011年8月現在、大阪港近くの大阪市港区築港3丁目7-15 港振興ビル305-Aにある。

日本クリニクラウン協会の歩みは、2004年1月にオランダ総領事館主催で開催された「クリニクラウン・ワークショップ&講演会」に端を発する。そして同年12月に、日本クリニクラウン協会設立準備委員会が発足し、翌年2005年5月に、日本クリニクラウン協会が発足し、事務

30

所が開設された。その2カ月後の7月に、第1回クリニックラウンの公開オーディションが開催され、第1期クリニックラウンの養成が開始された。そして2005年10月19日、特定非営利活動法人日本クリニックラウン協会として法人認証を、ついに受けるに至ったのである。

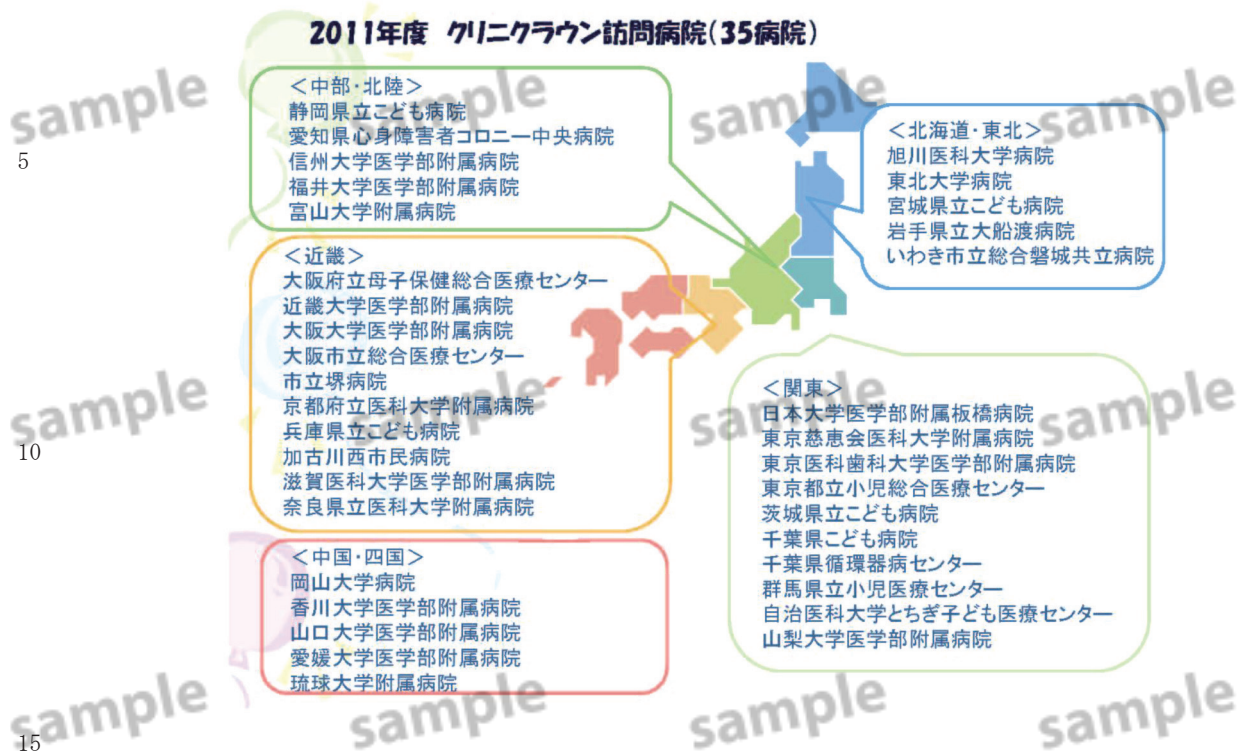
そして2005年11月に、大阪府への病院への派遣からクリニックラウンの定期訪問が開始され、翌月12月には兵庫県の病院への派遣が開始された。翌年2006年5月には、東京都の病院への派遣が、2007年4月には京都の病院、8月には茨城の病院への派遣が、そして2008年1月には千葉県の病院、4月には静岡県の病院、6月には岡山県の病院へと派遣が開始された。そして2009年5月には香川県の病院、2010年7月には栃木県の病院、8月には群馬県の病院、10月には富山県と福井県の病院、そして2011年3月には長野県の病院への派遣が開始され、現在の定期訪問先は、西日本エリアで12病院（大阪府立母子保健総合医療センター、近畿大学医学部附属病院、大阪大学医学部附属病院、大阪市立総合医療センター、市立堺病院、京都府立医科大学附属病院、兵庫県立こども病院、加古川西市民病院、岡山大学病院、香川大学医学部附属病院、福井大学医学部附属病院、富山大学附属病院）、東日本エリアで9病院（日本大学医学部附属板橋病院、東京医科歯科大学医学部附属病院、東京都立小児総合医療センター、茨城県立こども病院、千葉県こども病院、群馬県立小児医療センター、自治医科大学とちぎ子ども医療センター、静岡県立こども病院、信州大学医学部附属病院）に至っている。そして2011年12月末現在での訪問病院は、図6のようになっている。

クリニックラウンの活動において、毎年イベントを開催している2つの記念日がある。一つは、クリニックラウンの日である9月2日である（日本記念日協会より2006年5月5日制定）。この9月2日には毎年、クリニックラウン・フェスティバルが実施されている。もう一つが、8月7日（鼻の日）であり、2009年8月7日に開催された「RED NOSE DAY ～1万人の笑顔大作戦～」というチャリティ・イベントを実施して以来、毎年、RED NOSE DAYを開催している。

また記念日ではないが、2008年8月31日に第1回目の、2009年8月23日に第2回目の、2010年10月17日に第3回目の、そして2011年10月16日に第4回目の臨床道化師フォーラムを開催し続けている。フォーラムは、クリニックラウンが数多くの臨床経験の中で得た「子どもの成長や発達には、子どもが子どもらしく過ごせる空間と経験、即ち『こども時間』の保証がかかせない」という確信をより多くの方と共有するために、クリニックラウンの事例報告を行う目的で開催されるものである。

その他の活動として、2006年9月には「インターネットクリニックラウン for children」事業を開始し、2010年10月には、写真展「瞬間を生きるこどもたち」を開催し、また同月には『こども時間』を届ける臨床道化師』を出版している。また設立に関わったクリニックラウン・オランダ財団からも2009年2月8日から14日まで理事長アーティスティックリーダーが来日し、

図6 クリニクラウンの訪問病院（2011年3月末時点）



クリニクラウンの先進国であるクリニクラウン・オランダ財団と提携関係を結んでいる。そして2011年4月に東日本大震災への災害援助として被災地域の病院へのクリニクラウンの特別派遣を実施し、現在も続けている。

海外、特にオランダでのクリニクラウンの活動について、1992年に設立されたクリニクラウン・オランダ財団 (<http://www.cliniclowns.nl>) では、オランダ国内の9割の病院・小児医療施設を定期的に訪問している。またオランダ国内だけでなく、日本クリニクラウン協会との提携同様に、ルーマニアでも病院訪問クラウン団体の立ち上げなど国際的な活動を行っている。

スローガンの変化

2007年以降、日本クリニクラウン協会のスローガンは、「すべてのこどもにこども時間を」であるが、当初からこのスローガンではなく、ここに至る経緯があった。2005年5月に協会が発足した当時のスローガンは、

「入院中のこどもに笑顔を」

であった。しかしクリニックラウンが臨床現場で子どもと関わることによって、新たな気づきが生まれた。子どもの闘病生活には笑顔になることだけが重要なのではなく、笑顔になるための療育環境の充実が欠かせない点に気がついた。子どもの成長や発達には様々な新鮮な体験や、心の通った人間的な交流が欠かせない、と感じ、2007年から、2011年まで続いている以下のスローガン：

「すべてのこどもにこども時間を」

へと変化していった。

日本クリニックラウン協会の収支

特定非営利活動法人である日本クリニックラウン協会の2007年以降の収支決算は、表2に示されている。2007年の収入は約1800万円、2008年の収入は約1500万円、2009年の収入は約1000万円、そして2010年の収入は約1300万円であり、その80%以上が寄付金収入と助成金収入である。一方、経常支出は2007年が約1600万円、2008年が約1900万円、2009年が約1300万円、そして2010年も約1300万円となっており、2007年の当期正味財産減少額は約2300万円の増加、2008年が約400万円の減少、2009年も約300万の減少、そして2010年は約15万円の増加となっている。

寄付金は、一口いくらという設定をせず、自由な金額で受け付けている。そしてその用途は主として、クリニックラウンの派遣に使われる、としており、郵便振込（口座番号：00920-3-118693、口座名称：特定非営利活動法人日本クリニックラウン協会）で受け付けている。また毎月1000円（一口）の継続的な寄付によって支援するというマンスリーサポーターという方法もある。これは、事前にご登録いただいたクレジットカードから毎月自動引き落としで寄付をすることができ、継続的な支援により、安定したクリニックラウンの派遣や長期的かつ計画的な活動の展開をめざすものである。

主たる助成実績は、2007年度に関して、日本財団によるクリニックラウン派遣事業への助成、財団法人大阪コミュニティ財団（社会福祉の増進）による入院生活を送る子どもたちのもとへクリニックラウンを派遣する活動への助成、メイスン財団によるクリニックラウンの病院訪問にかかる交通費の助成、ゴールドマン・サックス証券株式会社による寄付金プログラムの助成、Panasonic NPO サポートファン子ども分野による入院中の子どもが笑顔になれる環境づくりを行うクリニックラウン（臨床道化師）養成事業への助成、Yahoo! 基金 NPO 助成プログラムによるインターネットクリニックラウン事業への助成があった。

表2 日本クリクラウン協会の収支決算（2007年～2010年：単位円）

収支決算	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度
資金収支の部				
収入	18,465,982	14,844,694	9,901,985	12,920,748
5 会費収入	1,540,000 8.3%	1,215,000 8.2%	1,186,000 12.0%	1,127,000 8.7%
事業収入	2,552,940 13.8%	1,829,562 12.3%	1,146,201 11.6%	1,160,225 9.0%
内 助成金等収入	5,414,600 29.3%	5,145,447 34.7%	3,084,810 31.2%	3,978,080 30.8%
10 内 訳 寄付金収入	8,938,552 48.4%	6,631,964 44.7%	4,483,040 45.3%	6,654,781 51.5%
雑収入	19,890 0.1%	22,721 0.2%	1,934 0.0%	662 0.0%
資金収支の部：合計	18,465,982	14,844,694	9,901,985	12,920,748
経常支出の部				
事業費	9,779,413	11,777,707	6,670,813	7,246,225
15 派遣事業	4,699,525 29.1%	6,208,208 33.0%	4,837,009 36.6%	4,227,248 33.1%
養成事業	1,733,583 10.7%	2,573,254 13.7%	206,178 1.6%	133,875 1.0%
内 啓発事業	1,184,495 7.3%	984,897 5.2%	1,208,167 9.1%	1,025,017 8.0%
20 助成事業*	2,161,810 13.4%	2,011,348 10.7%	419,459 3.2%	1,860,085 14.6%
運営管理費	6,380,833 39.5%	7,013,891 37.3%	6,560,422 49.6%	5,520,612 43.2%
経常支出の部：合計	16,160,246	18,791,598	13,231,235	12,766,837
当期正味財産減少額合計	2,305,736	-3,946,904	-3,329,250	153,911

* 07～09はインターネットクリクラウン事業、10年は助成(CC交通費)事業

2008年度に関しては、日本財団によるクリクラウン派遣事業への助成、メイスン財団によるクリクラウンの病院訪問にかかる交通費の助成、Yahoo! 基金 NPO 助成プログラムによるインターネットクリクラウン事業への助成が引き続きあり、財団法人大阪コミュニティ財団（社会福祉の増進）そして Panasonic NPO サポートファン子ども分野からは、助成内容がやや変
30 わり、それぞれクリクラウン（臨床道化師）の派遣への助成とクリクラウン（臨床道化師）従事者ブラッシュアップ研修への助成が得られた。

また日本クリクラウン協会は、会員も募集しており、その会費も活動収入の一部となってい

る。会員は、2種類からなっている。1つ目の会員種類は、日本クリクラウン協会の目的に賛同して啓発・ネットワーク活動などに参加する「活動会員」であり、個人の活動会員の場合の年会費は5000円そして団体の活動会員の場合の年会費は30000円となっている。2010年3月31日現在、108名の個人活動会員と4団体の活動会員がいる。2つ目の会員種類は、日本クリクラウン協会の事業を賛助するための「賛助会員」であり、個人の賛助会員の場合には一口2000円そして団体の場合には一口10000円となっている。2010年3月31日現在、85名の個人賛助会員と5団体の賛助会員がいる。いずれの会員にせよ、上述の郵便振込口座にて受け付けている。

上述の毎年開催しているイベントへの参加費からの収入もあるが、経費などを勘案すると基本収益はほとんどない事業である。第4回目を迎える2011年10月16日に大阪で開催された「臨床道化師フォーラム」の場合、一般の参加費は2000円、会員や学生の場合の参加費は1500円となっている。2011年10月30日に東京で開催された「クリクラウンによるこども理解講座」の場合も同様に、一般の参加費は2000円、会員や学生の場合の参加費は1500円となっている（図7）。

臨床道化師フォーラム2011のプログラムは、午前10時30分から15時までとなっており、午前の部として10時30分から12時まで森康行監督、谷川俊太郎作・朗読の映画「かすかな光へ」が上映され、午後として12時30分から13時まで塚原成幸事務局長兼アーティスティック・ディレクターによる「東日本大震災におけるクリクラウンの特別派遣報告」が、13時から14時10分まで中川のみ日本社会福祉士会前副会長による「つばさの福祉～生きにくさの中で生きる～」が、そして14時20分から15時まで江端素子クリクラウンそして箕浦有紀クリクラウンによる「クリクラウンによる発達援助実践」の事例報告が行われた。クリクラウンによるこども理解講座のプログラムは、午後13時30分から16時までとなっており、まず午後13時30分から14時20分まで塚原成幸事務局長兼アーティスティック・ディレクターによる「すべてのこどもにこども時間を～クリクラウンの役割」レクチャーが、14時20分から14時50分まで中野朋恵クリクラウンによる「クリクラウンによる発達援助実践」の事例報告が、そして15時から16時まで「ユーモア・コミュニケーションの体験ワークショップ」が行われた。日本クリクラウン協会は、寄付金や会員に加えて、宣伝物や広報面において協会の支援やクリクラウン派遣費用のサポートをする企業や団体も募っている。例えば、王子ネピア株式会社は、2010年4月から、日本フィランソロピー協会を通じ、nepia GENKI!の売上の一部を日本クリクラウン協会に寄付している。この寄付の対象商品は、nepia GENKI! ハイキャッチ [尿便分離パンツ:L・Big]、nepia GENKI! ごきげんフィット [パンツ:M・L・Big]、nepia GENKI! まるごとガード [テープ:S・M・L]、nepia GENKI! 深呼吸シート [テープ:新生児用]、nepia GENKI! さらさらおしりふき [BOX・つめかえ用・おでかけ用] となっている（図8）。

図7 2011年度「臨床道化師フォーラム」と「クリニックラウンによるこども理解講座」の案内

図8 王子ネピアによるクリニックラウン活動の支援

クリニックラウンの病院訪問

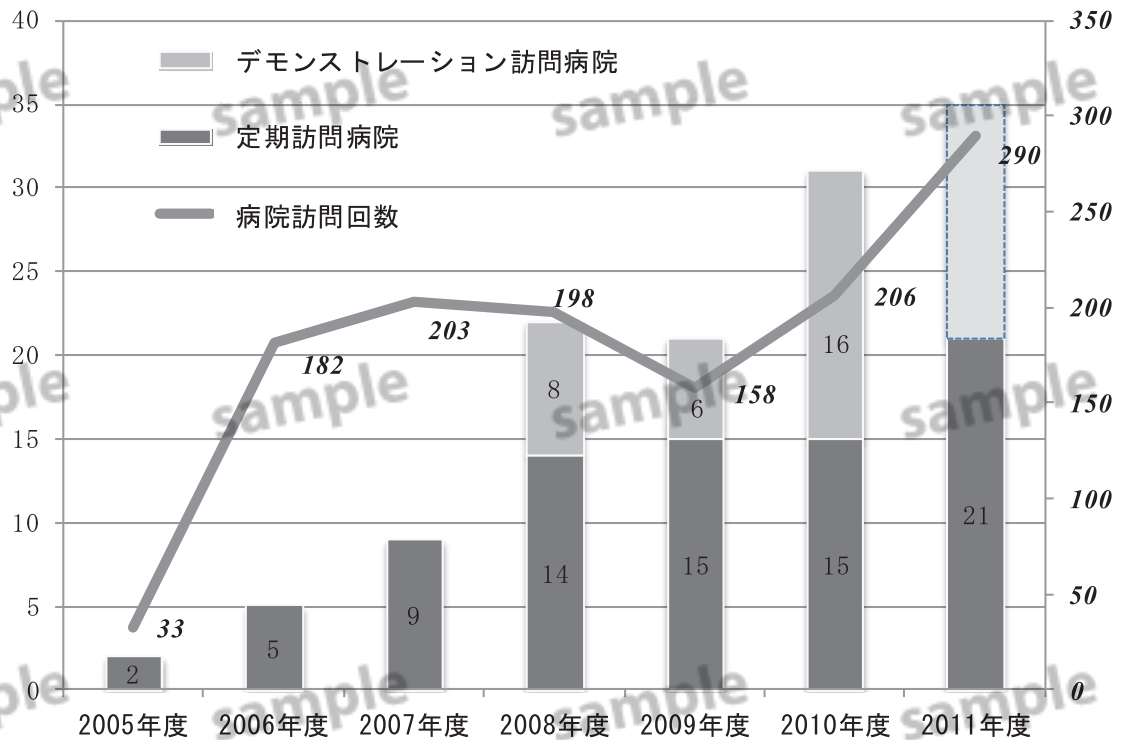
2010年度、日本クリニックラウン協会は206回の病院訪問を行い、7501人の子どもと関わった。2005年からの訪問病院数ならびに病院訪問回数の変化は図9のようになっており、2010年度は、定期的に15病院を訪問し、クリニックラウンの訪問を体験してもらう目的で訪問するデモンストラーション訪問病院数は16にのぼり、派遣したクリニックラウンの数はのべ412名となっている。そして2011年度は、2012年1月時点で、290回の病院訪問を実施、計画しており、約1万人の

子どもと関わり、訪問病院数は35に至っている。

病院訪問に関して、1病院につき、クリニクラウンは必ず2名1組で訪問し、個室・総室を含む10～15部屋を、約2～3時間ぐらいかけて訪問する。また病院によっては、2つの病棟を訪問することもある。1人の子どもに関わる時間は、様子や状況によって変化するが、約10～15分である。

5

図9 訪問病院数ならびに病院訪問回数（2005～2011年度）



10

15

20

クリニクラウンの病棟訪問は、プレイルームやロビーに子どもたちを集めて演技を披露するのではなく、一人ひとりの部屋を個別に訪ね、子どもや家族と直接、遊んだり対話をしたりする。また、クリニクラウンは子どもだけでなく、保護者や医療スタッフとも、積極的にコミュニケーションを図る。それは、病棟で出会うすべての人に関わり、その場に集う人と人をつなぐ役割がクリニクラウンにはあるからである。その結果、1回の訪問でクリニクラウンが関わる人の数は、約40～60人となる。

25

クリニクラウンが訪問する病棟は、小児専門病院の血液疾患病棟や大学病院の小児病棟などである。現在では、ICUやNICUなどの集中治療室への訪問も増えている。特にNICUでは、外部からの訪問者がまれであるため、子どもたちのアクティブな反応を引き出すという面だけでなく、付き添いの保護者に対する緊張の緩和やストレスの軽減などの効果が上がっている。

30

千葉県こども病院訪問 2010 年 10 月 26 日

2010 年 10 月 26 日、日本クリクラウン協会は 2 名のクリクラウンを千葉県こども病院に派遣した。千葉県こども病院は、千葉市緑区辺田町に 1988 年 10 月に開院した、病床数 200 床（敷
5 地面積約 4 万 m²、病院延床面積約 2 万 m²、地下 1 階地上 7 階）の病院である。2010 年現在、約 60 名の医師、約 260 名の看護師により、一般病棟 167 床、集中治療室 PICU9 床、新生児集中治療室 NICU9 床、新生児未熟児治療室 GCU15 床、無菌病床 3 床を有している。2008 年 1 月よりクリクラウンの訪問がスタートし、2011 年度は年間 24 回の訪問を実施している。

10 【出発】

2 名のクリクラウンは、各自で、自宅などで準備運動を行い、JR 外房線鎌取駅に向かった。お昼前に駅で待ち合わせをしたクリクラウンは、昼食を取りながら事前打ち合わせを行い、子どもたちの待つ千葉県こども病院に向かった。病院に到着後、クリクラウンは協会事務局に訪問開始の電話を入れた。

15 【病室訪問準備】

13 時前に病院に到着した 2 名のクリクラウンは、衣装に着替え、道具を準備し、ウォーミング・アップの準備体操を始めた（図 10）。そして噴霧式の消毒液を取り出し、道具や衣装、身体のエタノール消毒を始めた。クリクラウンは、特に 3 つの点に注意している。第 1 に、クリクラウンが身につける衣装に関して、毎訪問ごとに洗濯ができること、金具などが露出して
20 いないこと、そして外で履いた靴は病棟に持ち込まないことである。第 2 に、ウォーミング・アップ時に、顔の表情や身体表現を豊かにするために、念入りの柔軟運動などを行って、心と身体をリラックスさせることである。そして第 3 に、訪問時に使う道具に関して、子どもの健康状態を考慮し、容易に消毒ができること、突起した部分がないこと、簡単に欠損しないこととい
25 った細心の注意を払うことである。

【病棟打合せ：事前カンファレンス】

準備ができた 2 名のクリクラウンは、病室の配置そして★で示された子どもの数を示したチェックシート（図 11）を取り出し、医療スタッフからの子どもに関する説明を聞き、入念に
30 確認事項を記入し始めた。クリクラウンは、子どもの病状にスポットを当てるのではなく、今、そこにいる子どもの瞬間と存在に関わると考えられている。したがって、事前カンファレンスで確認する情報は、治療計画だけでなく、その日の体調や遊びに対する積極性、コミュニケーション

sample

sample

sample

sample

sample

図 10 エタノール消毒



図 11 事前カンファレスでのチェックシート



sample

sample

sample

sample

sample

図 12 クラウニングの様子



sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

ンに対しての動機付けなどの確認などが中心となる。またこの事前カンファレンスを通じて、医療者とその日の訪問部屋の確認や順番、感染予防マスクの着用の有無をチェックする。マスクをつけた状態でも、アイコンタクトで自分の気持ちを伝えるトレーニングを、クリニックラウンは研修中に行っている。クリニックラウンは、「持ち込まない」「持ち出さない」という鉄則の基に、感染の媒介者にならないよう細心の注意を払っている。

【病棟訪問：クラウニング】

約 15 分程度の事前カンファレンスが終わった 2 名のクリニックラウンは、赤い鼻を取り出し、ノーズオンした。その瞬間、クラウニングが始まり、ハーモニカを吹いて音楽を奏で、踊りながら、カンファレンスをした部屋を出て、病棟に向かった。子どもと様々な遊びや会話を 2 名のクリニックラウンは、次々と行い、子どもの笑顔があふれる世界が創出されていった（図 12）。クラウニング時の最小単位である二人一組で、コミュニケーションの世界をつくる。入院中の子どもたちは病院という環境での生活のため、楽しむことや他者と関わることへのモチベーションが低下せざるを得ない状況に陥りがちである。そこで、クリニックラウン同士の関係性や遊びに触れることにより、ゲームでは味わえない人と関わることの楽しさを体験してもらうことができる。また、たとえ教育されたクリニックラウンであっても活動が密室化することを避けるため、お互いの行動を確認しあう効果もある。訪問する病棟は小児一般病棟に限らない。集中治療室や新生児集中治療室などでもクラウニングは時に行われることもある。

【訪問後カンファレンス】

約 2 時間 30 分のクラウニングを終えた 2 名のクリニックラウンは、音楽を奏で、踊りながら、事前カンファレンスをした部屋に戻った。そしてノーズオフをし、今日のクラウニングの意見交換を医療スタッフと行い始めた。クラウニングを終えたクリニックラウンは、訪問時の子どもの様子を医療スタッフと共有し、情報交換を行う。

【訪問終了】

約 15 分の事後カンファレンスを終えた 2 名のクリニックラウンは、衣装を着替え、道具を片づけ、改めて噴霧式のエタノール消毒液を取り出し、道具や身体の消毒を始めた。クリニックラウンは、「持ち込まない」「持ち出さない」という鉄則の基に、細心の注意を払い片づけを行う。

【帰宅】

全ての片づけを終えた 2 名のクリニックラウンは、協会事務局に訪問終了の方向をするため電

話を入れた。時計は18時を過ぎていた。待ち合わせをした鎌取駅に向かい、病院訪問後の報告書を事務局に提出する準備を考えながら、各自の帰路へと戻っていった。協会は受け取った報告書を精査し、適切な活動が行われたかの監査を行うのであった。

クリニクラウンの効果

日本クリニクラウン協会は、クリニクラウンの効果として3点をあげている。第1の効果は、療育環境の改善である。クリニクラウンは、子どもだけではなく、医療スタッフや付き添いのご家族、清掃スタッフなど、病棟にいるすべての人々関わる。これは、病院という環境をつくっているのが病棟にある設備や医療機器だけでなく、そこにいる人の存在が大きく影響しているという考えに基づいている。クリニクラウンは、様々な人との関わりを通じて、病棟内の人間関係や固定化した価値観をかき混ぜ、空気を動かそうとする。そして、そこにいるいろいろな立場の人がクリニクラウンと関わることによって「自然と笑顔になっている自分に気づいた」、クリニクラウンと踊るドクターを見て、「先生の違う一面が垣間見えた」など、その人自身も持っている自然体の表情が現れるようになる。これは、緊張状態にある子どもにもいえることで、他者との関係性が取りにくいと思われていた子どもがクリニクラウンと無邪気に遊んでいる様子を周りの大人が見て、あらためてその子が本来もっている子どもらしい表情を再認識するということもよく起こる。協会は次のように考えている：

人はそれぞれ多様な性格や表情をもっているものであり、意外な一面が見えることで、その人への見方も変わります。相手に対しての見方が変わると、関わりにも変化が生じ、病棟の空気が和らぎ、寛容な雰囲気を持つ場に変化していきます。このことが成長過程にある子どもに、大人の目を気にして我慢するといったことをさせず、自己の確立を促すことにつながります。つまり病棟という空間にいる人同士をつなぐきっかけをクリニクラウンは創り、やがては療育環境の改善へつながっていきます。

第2の効果は、逆転の発想である。これはクリニクラウンならではの効果である。病室に入りたいのにドアの開け方がわからず、押したり引いたりドアをたたいたりしているクリニクラウンを見て、子どもがベッドから降りてきて「そんなこともわからないの？」とドアを開けてくれたりすることが、この一例である。長期入院している子どもたちは、治療を受ける過程の中で、大人の意と反してケアを受けるプロと化す傾向にあるようである。これは適応力が高い子どもの特性の一つともいえるが、受身でいることが当たり前になってしまうと、子どもの成長の度

合いに影響を与えてしまうこともある。協会は次のように考えている：

5 ケアを受けることに慣れている子どもたちが逆にクリニックラウンの世話を焼き、自分の存在感を再発見することも逆転の発想を大切にするクリニックラウンの特長ともいえます。いつも教えられる立場の子どもたちがクリニックラウンに様々なことを教えたり、逆にドクターにクリニックラウンがコミカルな挨拶の仕方を教えたり、一般的に決めつけられた役割や立場を自由自在に変えることができるのがクリニックラウンです。病室にあった何の変哲もない日用品が太鼓やピアノに変わったり、ベッドを隔てているカーテンとダンスを踊ってみたりしながら、病院生活そのものに自由な発想やアイデアを提示し、新しいものの見方を伝えています。言い換えればこの状況をさかさまにすることが道化師本来の役目であり、入院している子どもにとっては悲劇を喜劇に変える、あるいはネガティブをポジティブに転換するクリニックラウン最大の効果でもあるのです。

15 事務局長兼アーティスティック・ディレクター塚原成幸クリニックラウンは、2011年2月15日に行われた慶應義塾大学ビジネス・スクールでの講演で次のように語っている：

20 入院している子どもは、ケアされているという入院環境により「おとな」子どもになっています。また、何かにつがっている恐怖を常に感じていたり、何も変化がないことに幸せを感じていたりします。「お前ら暇やね？」と言うようなネガティブな言葉を発する子どもは、本気でリアルな人間関係を求めています。「病気に興味がない」「病院にも興味がない」というような態度を示すことで、本気でリアルな人間関係を築くことができます。徹底的に「個」と向き合うことで、築くことができます。例えば、次のような会話です。

25 子ども A 「他に行くところないの？」

クリニックラウン 「他は考えたことないよ」

クリニックラウン 「他には君はいないのだから、君に会うためにはここ以外は考えられないんだよ！」

子ども A 「病院は他にもあるよ」

30 クリニックラウン 「病気に興味があるのではなくて、君に興味があるんだよ」

クリニックラウンの鉄則は、疾患や症状に焦点をあてるのではなく、その子どもの存在と瞬間を尊重することです。

また逆転の発想も大切です。「はなトマトがやってくる！」という子どもの発言は、「やっつけたい」という気持ちであり、「追いかけてたい」という気持ちです。また「うるさい」という発言は、「かまいたい」という気持ちであり、「また会いたい」という気持ちなんです。

クリニクラウンの第3の効果は、クリニクラウンの基本スタンスにある。上述のように、クリニクラウンは訪問する前に医療スタッフとカンファレンスを行い、病棟の状況や検査、処置など必要最低限の情報を得てから病棟に行く。クリニクラウンは、事前カンファレンスにおいていかなる情報を得ても、子どもの「病気」の部分ではなく、子どもらしい側面と関わる。なぜなら、子どもたちにとってクリニクラウンは安心して遊べる相手であり、主導権は子どもたちにあるからである。入院中であっても安心して子どもらしさを発揮してもらいたい、という思いから、こころの繋がりを築き、今、そこにいる子どもの瞬間と存在を大切にし、病気や、病院にいることを忘れさせるような時間を過ごすことを大切にしている。

病院という環境では治療が優先で、時に子どものQOL（クオリティ・オブ・ライフ）や情緒、感情の発達が後回しになってしまうこともある。病院で生活する子どもたちのまわりは大人ばかりである。クリニクラウンは、これらの子どもたちが病院で関わる誰とも異なっており、医療関係者でも教育関係者、家族でもない。スタッフが補えきれない部分をクリニクラウンは病院、治療のルールに縛られない存在としてサポートしている。クリニクラウンに会っている時間だけが充実するのではなく、人と関わるコミュニケーションそのものに関心をもってもらえるような演出が、クリニクラウンの基本スタンスであり、特有のアプローチである。

医師のこえ

日本大学医学部附属板橋病院小児科病棟医長である陳基明氏は、医療現場におけるクリニクラウンの可能性について、次のように述べている：

日本大学医学部附属板橋病院小児病棟には、2006年6月からクリニクラウンの方々に訪問していただいております。当初、私は、「クリニクラウン」という言葉は知っていましたが、実際、病棟内でどのような活動をするのだろうと、私を含め保育士や看護師は、期待半分、心配半分でした。しかし、この心配は、私たちの取り越し苦労に終わり、初回からクリニクラウンの訪問を受けた子どもたちは、眼を輝かせ、笑顔で楽しんでいました。

「笑い」は、周囲を和ませたり、笑っている本人は、安らぎとか安心を感じたりしま

す。笑いでリラックスすると自律神経の働きが安定して、血中酸素濃度も増加するため、ストレスを大幅に減少させることができるそうです。また、大脳辺縁系を刺激し、 β （ベータ）エンドルフィン（内因性モルヒネ様物質で、脳内ホルモンとか幸福ホルモンとも呼ばれている）の分泌が促進されます。また、リンパ球の増加により免疫能の上昇などがみられると言われております。しかも、笑いは、A-10 神経（快感神経）を刺激し、脳波で α 波が増え、情緒が安定し感情を豊かにする作用もあります。笑いでストレスを発散し、ときめき、感動することで NK（ナチュラルキラー）細胞というリンパ球に影響し免疫力を高め、細菌・ウィルス・がん細胞を排除するという医学的な効果についても証明されています。このように「笑い」は、医学的に、さまざまな良い作用がヒトに起こるようです。

長期に入院している小児がんの患児達は、病気によっては、6 か月から 12 か月間も入院し、苦い薬の内服や 吐き気のある薬の点滴を受けるなどのつらい治療を受けています。1 歳前後の小さい乳幼児達は、クリニックハウンの突然の訪問を受けると急に泣き出してしまう事がありますが、慣れてくると笑顔を見せてくれたりします。子どもたちは、我々、大人とは異なって、素直で正直なので、嬉しいときは笑顔を見せてくれ、嫌なときは、不機嫌になり、泣き顔になったりします。長期に入院している患児で、病室をクリニックハウンが訪問した後も、病室から楽しそうな顔をだしてクリニックハウンの姿を追っている光景を良く見かけます。

長期に付き添いをしているお母さんもクリニックハウンから笑いをもらい、自分達の子どもがニコニコしている笑顔を見ると心が和み、疲れも吹き飛んでしまうのではないかと思います。患児の笑顔や付き添っているお母さん達の笑顔を見かけると、我々、医療スタッフも大学病院での常に緊張している医療の中で、ほっと、一息をつける瞬間があり、お互いのコミュニケーションも良好になり良い関係を保てるようになると思います。

これからもクリニックハウンをめざしてくれる方が増え、全国の多くの病院に入院している子どもたち、付き添いのお母さん達、医療スタッフに素敵な「笑い」のプレゼントを贈っていただければと希望します。

看護師のこえ

千葉県こども病院 こども・家族支援室元副看護部長 尾出真理子氏は、クリニックハウンの効果について、次のように述べている：

当院では、数回のデモンストレーションのあと、2008年4月から、比較的長期入院児が多い脳外科・泌尿器科・腎臓内科病棟を毎月、NICU・GCU病棟と血液腫瘍科病棟を隔月交互に定期訪問をしていただいています。私は、担当者として毎回同行し、病棟スタッフとともに楽しませてもらっていますので、おすそわけとしていくつかのエピソードを紹介します。

クリクラウンが初めて訪れたのは3年前。クリクラウンの独特な服装と赤鼻とハーモニカやタンバリンなどの軽快な音楽に、えっ！！何々！！遊んでもいいの？と半信半疑ながら、興味津々に近づいてくる子どもたち。そして、怪訝そうな顔をしながら関わらないようにしようと思っていたおとなたち。そんな光景も、もうなつかしい感じがします。今では肌で感じる風が自然に吹いて、心地よい余韻を残し、子どもたちの成長とともに、あらたな期待へとつながっています。

はじめは、クリクラウンに近づかれると恐そうに顔をそむけていた2歳の女の子がいました。もちろん、病棟のスタッフ以外は（私も）、目もあわせてもらえませんでしたが、毎月のクリクラウンの訪問日には、病棟入り口で待つようになり、次には、保育士さんにそっとタンバリンを要求し、でも、なかなかのってきません。しかし、次には、廊下の片隅に立ちタンバリンでリズムをとり、半年後ぐらいには、他の子どもたちといっしょにあとを追いかけていくようになりました。

クリクラウンの絶妙な子どもとの距離感と子どもをキャッチするスキルの高さに毎回驚かされますが、この子を見違えるような表情の変化と行動にスタッフとともに、感激し成長を喜びあいながら、これも、継続的に訪問していただけた成果だと感じています。

また、普段ほとんど感情を表出しないように思われた看護師が、期待なげに「クリクラウンさんきたよ」と担当の乳児を抱っこし、声をかけました。障害により、追視もままならなかった子どもが、楽器の音やクリクラウンの声や風の動きに反応し、その反応に看護師が思いがけず、興奮し感激した様子に、私も思わずうれしくなっていました。

また、病名告知を受け、ひとり呆然と子どもを見ていたお母さんがいました。そんな時もクリクラウンは、優しく寄り添い、子どもの笑顔を引き出しながら、母のがんばるころを後押し、母にも笑顔の輪を広げていってくれました。

もうすでに、クリクラウンの実力は周知のことと思いますが、その子の子らしい笑顔や反応を引き出す技は抜群です。そして、家族の笑顔を引き出し、スタッフの笑顔へ連鎖する輪を繋いでいってくださるクリクラウンの活動は、当院にはなく

てはならないものとなり、今後は対象病棟を広げていきたいと思っています。治療の場であっても、生活の場であり、子どもと家族とスタッフにとって、かけがえのない大切な時間であることを常に感じさせてくれる頼れる支援者に大変感謝しています。来月も待ってまあす!!

5

チャイルド・ライフ・スペシャリストのこえ

茨城県立こども病院チャイルド・ライフ・スペシャリストの松井基子氏は、クリニック라운の効果について、次のように述べている：

10

ここ数年、日本でも病院で活躍する道化師たちがその活動の場を広げつつあるのを感じています。2007年9月、当院でもクリニック라운（以下CC）の活動が開始されました。以来、チャイルド・ライフ・スペシャリスト（以下GLS）として、CCと一緒に活動する機会に恵まれ、彼らのプロ意識やスキルの高さ、そして子どもたちの変化や笑顔を目の当たりにし、CCの役割の大きさを感じてきました。

15

まず、CCには子どもを「エンパワメント」する力があると感じています。病棟には慣れない環境で不安や恐怖の中にいたり、制限の多い生活の中で本来の力を出せない子どもたちもいます。保育士やGLSは遊びや環境整備等を通して、病院の中に「日常」を持ち込み、子ども本来の力を引き出せるように活動しています。一方、CCは“スーパーこども”として、病院というイメージをよりポジティブに変える力を持っていると思います。どちらも遊びがキーポイントとなっており、目標も似ていますが、CCにしかできないインパクトを持っていると思います。

20

また、入院生活には検査や内服など「やらなければならないこと」がたくさんあります。スタッフはできる限りの選択を与えてくれますが、受身にならざるをえない環境です。コントロール感を失い、ストレスが非常に強くなっているお子さんもいます。その中で微笑ましいドジをくり返すCCは、子どもたちに「教えられ」たり「守られ」たりする共育的存在となっています。

25

このように、「子どもたちが本来の力を出し、“力ある存在”となる」(エンパワメント)一助になっていると感じます。病院環境への慣れや親しみ、主体性・積極性や自信が育っていくことにつながっていくと思います。そして、「成長発達の支援」も大きな役割の一つだと感じています。「伝えたい」という気持ちがあふれ出てきて、コミュニケーションの発達を目にすることがよくあります。個々に合った関わりを通して、ご両親やスタッフが小さな変化や動きに気づく機会を提供したり、普段はお姉さんお兄さん役の

30

多い子が年齢相応の反応をしたりと、月に1度の活動の中でもたくさんの成長の機会と気づきを届けてくれます。

しかし、驚くのは見た目の華やかさとは違い、遊びがとても繊細であることです。物理的・心理的距離の取り方、シグナルの受け止め方など、子どもと関わるスキルが身に付けられています。エンターテインメントとしての楽しさや華やかさを持ったまま、押し付けになることなく、子どもの選択や気持ちに添うように遊びが展開されていきます。

CCはストレスの軽減や成長発達の支援となっている点で、「治癒的な存在」と言えると思います。しかし、「治癒的な存在」となるためには適切なスキルと、さらには医療チームの一員として目標やCCが活動から持ち帰ったものを分かちあっていくことが不可欠です。子どもたちにとって、CC訪問がよりよいものになるようこれからも試行錯誤しながら一緒に活動を続けていきたいと思っています。

保護者のこえ、そして子どもの反応

医師、看護師、チャイルド・ライフ・スペシャリストなどによるクリニクラウンの効果に対して、保護者の方からのこえとして、次のようなことが聞こえている：

子どもが積極的になってきた。

家族とのコミュニケーションが増えた。

子どもが子どもらしい表情になってきた。

2006年7月に娘の円来（つぶら）ちゃんを、大阪府立母子保健総合医療センターで、神経芽細胞腫により亡くされた笠井功治さん・千春さんは、次のように述べている：

……今までは保育園大好き、外遊び大好きだった子どもが、ある日を境にいきなり閉じ込められるわけです。今でも円来が「どんな気持ちだったのだろう」と思うことはあります。

よく我慢したと思いますよ。先日、当時の担当の先生と会ったときに、サッカー少年も入院して退院するとゲーム少年になるという話を聞きまして、円来はどうだったのかなと思いましたが、ゲームを忘れさせてくれる存在がクリニクラウンだったと、僕は思っています。

……大阪の病院に移ってからは、やはりクリニクラウンの存在が大きかったです。訪

5 問日の前の夜から円来のテンションは上がるし、お風呂に念入りに入ってきれいにして、9時にはちゃんと寝て、朝も元気よく起きていたのが忘れられません。洋服も靴下までコーディネートしていたけれど、自分から着替えるなんて言ったのはその時だけでしたから。だからその時に人に会いたいという思いには、すごい力があるのだと思いましたね。

10 お昼寝をしてしまったらクリニックラウンが帰ってしまうので、「昼寝はしない」と頑張っていて、私が起こすからと言っても「ママはすぐ寝るからダメ」の一点張り。結局、いつも廊下で待機していましたね。始めはクリニックラウンの後をついて回っていただけでしたが、途中から指示を出すようになりました。親としては、まさか病院であんなに楽しそうな円来の姿を見られるとは思っていなかったし、そんな円来の姿に勇気づけられました。あの時間は本当に貴重でした。

また子どもの反応としては、

15 クリニックラウンと早く会いたい。

友だちと遊ぶ時間が増えた。

曜日や時間の感覚が戻ってきた。

人が好きになった。

20 といったことが聞こえている。

日本クリニックラウン協会のマーケティング

25 特定非営利活動法人日本クリニックラウン協会の事務局長兼アーティスティック・ディレクターの塚原成幸氏は、今日も、入院生活を送る子どもの病室を訪問し、遊びやコミュニケーションを通して、子どもたちの成長をサポートし、笑顔を育んでいる。「こどもを超えたスーパーこども」であるクリニックラウンでありつつ、事務局長でもある塚原氏は、事務局スタッフの熊谷クリニックラウンと、じっくりと子どもと関わることを大事にしながら、今後の日本クリニックラウン協会でのクリニックラウンの活動に関して、特に存続成長のためにもいかに収益を維持していくべきか、30 いかに広報活動を展開していくかに関して、思案をめぐらせていた。

参考文献

特定非営利活動法人日本クリクラウン協会ホームページ <http://www.cliniclowns.jp>

塚原成幸、特定非営利活動法人日本クリクラウン協会（2010）『「こども時間」を届ける臨床道化師－瞬間を生きる子どもたち－』、オフィスエム。

特定非営利活動法人日本クリクラウン協会（2008、2009、2010）『臨床道化師フォーラム報告書』。

特定非営利活動法人日本クリクラウン協会（2007、2008、2009、2010）『事業報告書・収支決算報告書』。

寺島純子編（1999）『山の道化師 PACKMAN と笑っていこう』、オフィスエム。

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

sample

不 許 複 製

慶應義塾大学ビジネス・スクール